**18 『更級日記』**

といふところもすがすがと過ぎて、いみじくわづらひでて、にかかる。①さやのなど越えけむほどもおぼえず。いみじく苦しければ、ちうといふ川のつらに、造り設けたりければ、そこにて日ごろ過ぐるほどにぞ、やうやうおこたる。冬深くなりたれば、川風けはしく吹き上げつつ、へがたくおぼえけり。その渡りしの橋に着いたり。浜名の橋、下りし時は木を渡したりし、②このたびは、跡だに見えねば、舟にて渡る。入り江に渡りし橋なり。

の海は、いといみじくあしくたかくて、入り江のいたづらなるどもに、こと物もなく松原の茂れる中より、浪の寄せかへるも、いろいろの玉のやうに見え、まことにのより浪は越ゆるやうに見えて、いみじく　　　　　。

それよりかみは、ゐのはなといふ坂の、えもいはずわびしきを上りぬれば、の国のの浜といふは名のみして、橋のかたもなく、なにの見どころもなし。むらの山の中に泊まりたる夜、大きなるの木の下にを造りたれば、、庵の上に柿の落ちかかりたるを、人々拾ひなどす。の山といふところ越ゆるほど、③つごもりなるに、散らでさかりなり。

　こそ吹き来ずけり宮路山まだもみぢの散らでのこれる

三河ととなるかすがの渡り、げに思ひわづらひぬべくをかし。

語　注（地名は一部割愛）

天ちうといふ川＝現在の天竜川。

浜名の橋＝浜名川にかけてあった橋。

黒木＝皮のついたままの丸太。

松の～＝「君をおきてあだし心をわが持たば末の松山波も越えなむ」（古今・）を踏まえた表現。

八橋＝川にかかっていた橋という。

しかすがの渡り＝「しかすが」は、そうは言うもののさすがに、の意。それが「しかすがの渡り」と同音なので、よく歌に詠み込まれた。

問1　第一段落より音便化している語を一語抜き出し、また、元の形を答えよ。（8点）

〔　　　　　〕　元の形〔　　　　　〕

問2　二重傍線部は、それぞれの単語がすべて基本形になっている。それぞれの単語を適当な形に活用させよ。ただし、「来」は平仮名で解答し、助動詞は文法上の意味も答えよ。（完答で8点）

〔　　　　　〕　〔　　　　　〕　〔　　　　　〕

　　　　　　　　意味〔　　　　　〕意味〔　　　　　〕

問3　空欄に入る語として最も適当なものを次から選べ。 （8点）

ア　おもしろし　　イ　つきづきし　　ウ　はづかし

エ　久し　　　　　オ　すさまじ

〔　　　〕

問4　傍線部①とあるが、なぜ覚えていなかったのか。その理由を簡潔に説明せよ。（8点）

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問5　傍線部②・③を口語訳せよ。 （6点×2）

②〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

③〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問6　『更級日記』の説明として最も適当なものを、次から選べ。 （6点）

ア　作者は。宮廷生活の詳細な記録である。日記の後半は、消息文と呼ばれ、同輩女房に対する批評などが書かれた作品。

イ　作者は。堀河天皇の発病・崩御の場面を中心に、新帝即位までの記事を収めている。「死」を主題としている特異な作品。

ウ　作者は菅原孝標女。少女時代から、信仰の世界に魂の安住を求めようとするに至るまでの、約四十年間を描いた作品。

エ　作者は。藤原の求婚からの二十一年間の結婚生活を回想して書いた作品。

オ　作者は紫式部。親王との恋愛事件を中心に、物語風に描いた作品で、百四十首の贈答歌が収められた作品。

〔　　　〕

練習問題〈いろいろな語に接続する助動詞〉

傍線部の助動詞の意味と活用形を答えよ。

①　の外にゐたまへるに「こはいかが」と申せば、

意味（　　　　　　）

活用形（　　　　　　）形

②　さては、扇のにはあらでのななり。

意味（　　　　　　）

活用形（　　　　　　）形

③　をのこは言加へさぶらふべきにもあらず。

意味（　　　　　　）

活用形（　　　　　　）形

④　さらに不用なりけりとて、

意味（　　　　　　）

活用形（　　　　　　）形

【解答】

問1　着い・着き

問2　「こ」／「ざり」・打消／「けれ」・詠嘆

問3　ア

問4　病気をひどく患っていたから。

問5　②今回は、跡（かた）さえ見えないので、舟で渡る。

　　　③十月の下旬（末）であるのに、紅葉が散らないで盛りである。

問6　ウ

【練習問題解答+口語訳】

①存続・連体《御簾の外にいらっしゃる（大納言）に、「これはどうしたらよいでしょうか」と申し上げると、》

②断定・連用《それでは、扇の（骨）ではなく海月の（骨）であるようだ。》

③断定・連用《男は口出しをいたすべきでもない。》

④断定・連用《全く無駄であったと言って、》